

第五代総裁

山本達雄

やまもと たつお



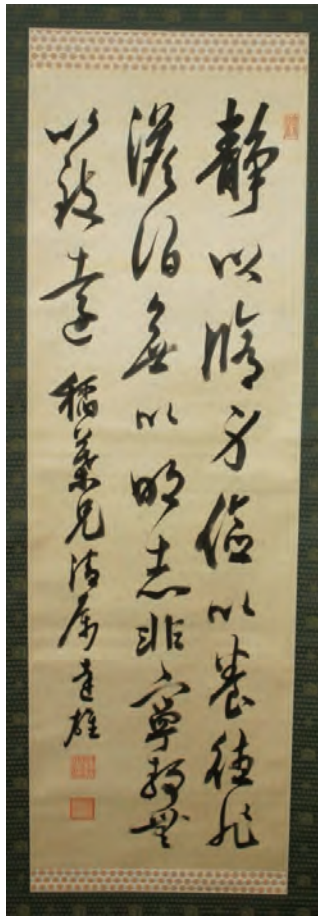
【総裁任期】

明治31年(1898)10月20日～明治36年(1903)10月19日

「日本銀行総裁」と聞いて、どのようなイメージをお持ちでしょうか？ このコーナーでは、歴代総裁の生涯をたどりつつ、総裁在任時に取り組んだ事柄や当時の日本銀行の歴史などを紹介していきます。今回は第五代総裁の山本達雄です。

山本達雄は、安政三年（一八五六）に豊後国臼杵藩（現在の大分県臼杵市）の藩士の家に生まれました。山本は家が貧しく思うように勉学に励むことができませんでした。だが、元来向学心旺盛であり、苦学を重ね、二四歳で三菱商業学校（のちの明治義塾、明治一七年廃校）を卒業しました。その後、岡山商法講習所の教頭を経て、二七歳で郵便汽船三菱会社（現・日本郵船株式会社）に職を得ます。同社にて知遇を得た川田小一郎（日本銀行第三代総裁）に引き抜かれ、三三歳で日本銀行に身を転じ、三七歳で営業局長となります。局長時代には日清戦争の戦費調達のための国債公募を成功させたほか、総裁代理としてロンドンに派遣され、日清戦争の賠償金の運用を監督するなど手





山本の生涯続いた趣味が書を書くことだった。写真は山本が書いた書「過雨空林」で、中国・三国時代の軍師・諸葛孔明が子孫に残した教えである『誠子書』の一節。  
(臼杵市教育委員会蔵)



山本が、日本銀行総裁退任後の明治42年(1909)から約1年9カ月総裁を務めた日本勸業銀行。写真は明治32年(1899)に、現在の東京都千代田区内幸町に建設された同行本店。  
(写真提供：ジャパンアーカイブズ株式会社)

腕を發揮します。明治三十一年(一八九八)、第四代総裁岩崎彌之助の辞職に伴い、山本は四二歳の若さで、第五代総裁に就任します。

山本の総裁就任当時は、日本が金本位制(注)を採用してから間もない時期だったことから、貿易依存度の高い当時の日本経済において、貨幣の裏付けとなる金の確保が課題でした。そうした中、山本は、急速な産業の近代化によって海外からの物資の輸入

が拡大することに伴う金の国外流出を防ぐため、金融を引き締めて通貨需要の抑制を図りました。

また、政府による日本銀行からの借入が増加していましたが、産業革命期の日本経済における民間資金確保などの観点から、政府向けの貸付額に上限を定めるよう主張するなど、山本は毅然とした態度で政府に接しました。このように、金本位制の維持と民間資金の確保を両立させるべく、中央銀行としての政策を果敢に遂行し、直面する課題に立ち向かいました。

任期満了による総裁退任後、山本は貴族院議員に勅選されたほか、明治四十二年(一九〇九)には日本勸業銀行(現・みずほ銀行)総裁に任命されました。その後、大蔵大臣(現・財務大臣)や、農商務大臣(現・農林水産大臣・経済産業大臣)を歴任するなど、経済界、政界で活動し昭和二十二年(一九四七)、九一歳でその生涯を閉じました。

(注) 貨幣価値を金に裏付けて表す制度。貨幣は正貨(金)と交換でき、貿易の最終的な決済も正貨で行う。